

参加者紹介

基調講演者

ラリー・D・ウェルチ

元空軍参謀長。退役空軍大将。前国防分析研究所（IDA）所長。IDA 主任研究員。各種指揮官・幕僚職を歴任。退役後 IDA の所長及び最高経営責任者。IDA の職務に加え、米戦略軍戦略諮問グループ議長、空軍宇宙軍独立戦略諮問グループ議長を兼任。同時に国防科学委員会、米統合戦力軍トランスフォーメーション諮問グループ、ミサイル防衛局諮問評議会のメンバーを務める。

報告者・討論者（発表順）

マイケル・オハンロン

ブルッキングス研究所上級研究員（外交政策研究）。米国の防衛戦略、軍事力の使用、本土安全保障、米外交政策の専門家。プリンストン大学客員講師、国際戦略研究所（英国）及び外交問題評議会（米国）のメンバーを兼任。プリンストン大学で物理学の学士・修士号を取得後、同大学で公共・国際問題で博士号を取得。1982年から84年には、コンゴ（現在のザイール）のキンシャサで、平和部隊のボランティアとしてフランス語で大学と高校の物理学を教授。1989年から1994年まで連邦議会予算事務局の分析官。防衛分析研究所研究員。近著として、*Defense Strategy for the Post-Saddam Era* (Brookings, 2005)、マイケル・レビと共著で *The Future of Arms Control* (Brookings, 2005) 等がある。

バーナード・フック・ウェン・ルー

シンガポール・ナンヤン工科大学防衛戦略研究所助教授。防衛戦略研究所の軍事革命研究のコーディネーターを兼務。戦争学、戦略理論、通常軍事戦略及びミドル・パワーの戦略問題の専門家。1991年にマッカーサー財団の奨学金による助成でオーストラリア国立大学の戦略防衛研究所で戦略学修士号を取得。1991年から1997年の間、SAFTI 軍事大学戦略研究部において軍事史を研究し、1997年に防衛戦略研究所に入所。2002年に IDSS の助成で、ウェールズ・アベリストウィス大学の国際政治学部博士課程を修了。著書として *Medium Powers and Accidental Wars: A study in Conventional Strategic Stability* (Lewiston, NY: Edwin Mellen Press, 2005) がある。

イ・ジョンミン

シンガポール国立大学・リー・クワン・ユー公共政策大学院客員教授。延世大学政治学部 (B.A.1982) を卒業し、米国タフツ大学フレッチャー・スクールで M.A.L.D. 及び Ph.D. (1988) を取得。リー・クワン・ユー公共政策大学院に所属する以前は、米国外交政策分析研究所研究員 (1985～1988)、延世大学東西問題研究院研究員 (1988～1989)、世宗大学校研究員 (1989～1994)、日本の防衛研究所客員研究員 (1994～1995)、RAND 研究所の政策分析官 (1995～1998) を歴任。2004年9月から1年間東京の政策研究大学院にて客員研究。危機管理、情報、安全保障動向、大量破壊兵器拡散等の著作があり、最近では、“China’s Rise, Asia’s Dilemma,” *The National Interest*, no. 81, (Fall 2005), “The North Korean Missile Threat and Missile Defense in the Context of South Korea’s Changing National Security Debate,” *Comparative Strategy*, vol.24, no. 1 (2005), “In Search of Strategy: South Korea’s Struggle for a New Security Paradigm,” *Disarmament Forum*, no. 2, (February 2005) 等がある。

廣中 雅之 (ひろなか まさゆき)

航空自衛隊幹部学校副校長。空将補。1979年防衛大学校卒業。第1高射群第1高射隊長、航空幕僚監部防衛部防衛課研究班長、第5航空団基地業務群司令などを経て、2005年1月より現職。ジョンズ・ホプキンス高等国際問題研究大学院で修士号取得 (国際関係) のほか、米国際戦略問題研究所 (CSIS)、スタンフォード大国際安全保障研究所でも研究に従事。

武居 智久 (たけい ともひさ)

海上幕僚監部監理部副部長。海将補。1979年防衛大学校卒業。護衛艦「いしかり」艦長、海上幕僚監部防衛課防衛班長、第1護衛隊司令、海上幕僚監部装備体系課長などを経て、2004年8月より現職。筑波大 (国際政治学修士)、米海軍大学校にて研究の経験も持つ。

ナム・チャンヒ

韓国仁荷大学社会教育院政治学・外交学部教授。米国ロレンスのカンザス大学で、日本の外交と北東アジアの国際関係を専攻し、1992年博士号を取得。韓国国防部軍史編纂研究所での1年間の調査研究の後、韓国国防研究院 (KIDA) の調査研究員として1994年から2000年までの間、勤務。韓国の青瓦台 (大統領府) の国家安全保障会議 (NSC) の国防政策諮問委員会のメンバー (2002年) として勤務。仁荷大学国際関係研究所副所長。論文は *Asian Survey* (1995、2006年予定)、*The Korean Journal of Defense Analysis* (2000、2001、2004) 及びその他の韓国語雑誌に掲載されている。

クリス・ドネリー

英国・連合王国国防学院上級研究員。ロシア研究でマンチェスター大学卒業後、後に自らセンター長となるソビエト研究センターを設立前の3年間、RMA サンドハーストで教鞭をとる。1989年に、NATO 事務総長の特別補佐官として4人の事務総長を補佐。2003年8月に、英国国防学院で非技術的な研究プロセス（the non-technical research process）の開発に責任を持つ上級研究員。元英国国防義勇軍（情報部隊）将校として、ソビエトおよびワルシャワ条約機構の軍のシステム研究を専門とする。ベルリンの壁の崩壊から、中央と東ヨーロッパにおける防衛と安全保障分野の改革に関して研究。特に関心がある現在の分野は、新しい安全保障脅威とそれへの対応である。

マイケル・G・ビッカーズ

戦略・予算評価センター戦略研究部長。アラバマ大学を卒業後、ペンシルバニア大学ウォートンスクールでMBAを取得。米国防省の戦略、能力及び戦力構成に関する4年で最大の見直しである2005年QDRに関する国防長官室上級顧問を兼任。QDR作成への支援に加えて、アンディ・マーシャル・ネットアセスメント室長が率いるQDR「レッド・チーム」の執行部長も兼務。ウェイン・ダウニング退役将軍とともに、ラムズフェルド国防長官のために米特殊作戦部隊の独立評価を担当。1973年から1986年まで、陸軍特殊部隊将校及び中央情報局作戦将校を務め、中央アメリカとカリブ海、中東及び中央アジアで広範な作戦と戦闘の経験を持つ。代表的著作としては、*The Revolution in War* (CSBA, 2004) 等がある。

高橋 杉雄（たかはし すぎお）

防衛研究所研究部第2研究室教官。早稲田大学政治経済学部政治学科卒業。同大学院政治学研究科修了（政治学修士）。現代軍事戦略論、国際関係論を専攻。主要著作は、『ブッシュ政権の国防政策』（日本国際問題研究所、2002年）（共著）、*The Information Revolution in Military Affairs in Asia*, (Palgrave Macmillan, 2004) 等がある。

徳地 秀士（とくち ひでし）

防衛庁内部部局長官官房審議官。2005年8月以来、防衛庁情報本部副本部長を兼任。東京の政策研究大学院大学で国家安全保障政策担当の客員教授を務める。1979年東京大学法学部卒業後、1986年にフレッチャー・スクールで法律外交修士号を取得。ワシントンD.C.の米国防大学国家戦略研究所で客員研究員（1995年7月～1996年11月）。運用局運用課長（1997年7月～1999年7月）、防衛局計画課長（1999年7月～2001年7月）、内閣官房副長官補（安全保障・危機管理担当）付内閣参事官（2001年7月

～2004年8月)、防衛局防衛政策課長(2004年8月～2005年8月)等を歴任した。

議 長

山口 昇 (やまぐち のぼる)

防衛研究所副所長。陸将補。1974年防衛大学校卒業。1983年陸上自衛隊幹部学校指揮幕僚課程卒業。1988年タフツ大学フレッチャ―法律外交大学院修士号取得。1991～92年、ハーバード大学ジョン・M・オーリン戦略研究所国家安全保障フェロー。陸上自衛隊第3飛行隊および第1対戦車ヘリコプター隊操縦士を務める。外務省日米安全保障条約課、防衛庁統合幕僚会議事務局、同陸上幕僚幹部勤務の後、在米国日本国大使館防衛駐在官等を歴任。主要著作は以下の通り。“Japanese Adjustment to the Security Alliance with the United States: Evolution of Policy on the Roles of the Self-Defense Forces,” in *The Future of America’s Alliance in Northeast Asia*, Michael H. Armacost and Daniel I. Okimoto (ed.) (Stanford: Asia Pacific Research Center, Stanford University, 2004); “The Security of Northeast Asia,” Robert Dujarric (ed.) *The Future of Korea-Japan-Relations*, (Indianapolis: Hudson Institute, 2001).『冷戦終結後における米国防政策の変遷』「国際安全保障」第29巻第3号2001年12月。

近藤 重克 (こんどう しげかつ)

防衛庁防衛研究所統括研究官。専攻は国際関係論、米国の安全保障政策、日米関係。京都大学卒業。1969年京都大学助手。1974年に防衛研究所に入所後、防衛研究所助手、所員を経て第1研究部第1研究室長。1993年に米国政治を専門として大阪国際大学教授。1997年に防衛研究所第1研究部長として防衛研究所に復帰。1997年から2003年まで『東アジア戦略概観』(防衛研究所編)編集長。2004年より現職。著書に『ブッシュ政権の国防政策』(共編著)等がある。